

平成三十年一月の收穫

土屋 博

一「日本正氣詩選 完」男鹿部朝陽選

(藍外堂、明治四十四年刊、正價金四拾錢、上篇一二二頁、中篇一二〇頁、下篇一二〇頁)

古書價格五百圓也。弘文天皇御製「宴に侍す」より、大江卓「春畝侯を悼む」までを収録す。序に曰く、「本篇に收むる所、遠く天智の朝より當朝まで凡そ千二百餘年間に涉りて、當時の名君、良弼、傑人、碩學、烈士、節婦の詠賦にして名吟秀句約一千首、口吟自ら心胖かに、溶々天地の春に和して我れ知らず、靄々たる仙境に遊ぶもの有り、或は悲壯慷慨淚湧き血熱して斷腸の想ひある在り」と。携帶に便利。

二「先哲遺訓 座右銘全集」藤原楚水著

(實業之日本社、大正三年三版、定價壹圓、五六四頁)

古書價格二百圓也。初版は明治四十三年。題字は、公爵山縣有朋、侯爵松方正義、侯爵桂太郎、男爵加藤弘之。目次を見るに、西郷隆盛「遺訓」(廟堂に立ちて大政を爲すは天道を行ふものなれば些)とも私を挟みては濟まぬものなり云々)、勝海舟「誠書生」(人難に臨み死を畏るるは固より鄙むべし、然れども速かに死するを以て快となすものも亦貴ぶに足らず云々)、藤田東湖「學則」(讀書は博を貴び候得共ウハスベリ致し候ては何程萬卷を讀み候とて用をなし兼候半哉、古人の所謂眼光紙背に透ると申す如く讀度事に御座候云々)、吉田松陰「士規七則」、山鹿素行「自警」、室鳩巢「自警條目」(每朝卯前後に起くべし云々)、二宮尊徳「報徳訓」(父母の根元は天地の命令に在り云々)、新島襄「座右銘」、等々百八十二名の先哲遺訓を收む。文語文の魅力満載にして、極めて重寶なる一冊なりと覺ゆ。

三「澁澤翁は語る」

(斯文書院、昭和七年刊、定價金貳圓五拾錢、本文三四一頁)

古書價格五百圓也。購入は二回目。天金、表紙に澁澤翁の写真あり、雨夜譚の豪華版。翁の子供時代に讀みたる書籍は、「小學、蒙求、四書、五經、文選、左傳、史記、漢書、十八史略、元明史略、國史略、日本外史、日本政記」などの由。

四「詳解全譯 日本外史 全 特製版」文學博士幸田露伴監修

(帝國書籍協會、昭和十二年十二版、定價金四圓二十錢、一四五八頁)

古書價格千圓也。天金、函入。初版は昭和六年。

幸田露伴の卷頭言より、「漢學は治め難くない。千餘年の親しみを有してゐる吾人が學脩するのである。既に半身の血肉はこれによりて出來てゐる吾人が學脩するのである」と。大町桂月の序より、「日本外史は余が十四五歳の頃愛讀せし書也。今幾んど三十年を隔てて之を讀むに、げに老大にして故郷に歸る時の感慨も斯くやと思はるる也。思ふに日本人の書きたる漢文の書にして日本外史ばかり長き年月にかけて多くの人に讀まれたる書籍は他にあらざるべし。如何なれば斯く日本外史が愛讀せられるぞと云ふに、その著者賴山陽の人物、識見、趣味、筆致が日本男子の意見と相投合すれば也」と。

五 「南洲手抄言志録講解」藤井金吾講解

(編輯兼發行者小寺謙吉、昭和十二年刊、非賣品、二五六頁)

古書價格三百圓也。南洲手抄とは、佐藤一齋の「言志四録」千百三十三篇より百一則を西郷南洲自ら抜萃したるものなり。たとへば、言志耄録よりの「毀譽得喪は眞に之れ人生の雲霧なり。人をして昏迷せしむ。此の雲霧を一掃すれば則ち天青く日白し」は、大西郷の「人を相手にせず天を相手にせよ」に通ず。

「拜呈小寺謙吉」の癸あり。小寺謙吉(一八七七年生れ、一九四九年歿)の生涯を調査してみるに、舊三田藩士の長男、神戸商業學校卒業。杉浦重剛の稱好塾に學びたる後、米國に留學し、コロンビア大學にて法律をジョンズホプキンス大學にて政治學を學び、更にハイデルベルク大學、ウィーン大學、ジュネーヴ大學にても政治・法律學を修む。明治四十一年衆議院選舉に三十一歳の最年少記録にて當選、昭和五年まで六期務む。明治四十五年三田中學を開校す。昭和二十二年初の公選による神戸市長に當選するも、昭和二十四年上京中に急逝、享年七十二歳。小寺による、本書出版配本の辭より、「今回本校創立二十五周年を迎ふるに當り、之が記念出版として、南洲手抄言志録に講解を加へ以て卒業生諸君并に生徒諸子に贈呈することと爲せり。……人格修養の資ともなることを得ば本懐何物か之に加へむ。」と。

六 「松濤閑談」牧野伸顯著

(創元社、昭和十五年刊、定價壹圓七拾錢、二六七頁)

古書價格二千五百圓也。牧野伸顯は大久保利通の二男。(十一歳にして岩倉使節團と共に渡米し、フライデルフイアの中學に學びたる後に歸國。開成學校、東京大學に學び、外務省に入省す。伊太利・奧太利公使、文部・農商務・外務・宮内・内大臣等を歴任。吉田茂の岳父に當る。)目次は、文物・制度に就いて(岩倉使節、明治の留學生等)、偉れた人々の思出(大西郷、伊藤公など)、巴里媾和會議に就いて。

なほ、表題の「松濤」は、自宅、澁谷の鍋島松濤園にありたることに由來す。

七 「牧野伸顯伯」下園佐吉著

(人文閣、昭和十五年第三版、定價貳圓參拾錢、本文二二九頁)

古書價格五百圓也。著者は讀賣新聞出身。巴里平和會議に於ける逸話より、日本の人種平等論に佛蘭西は最初より賛成したるも、強硬に反對せしは、數か月後に總選舉を控へたる豪州ヒューズ首相なりきと。假令主義上^{たしむ}にても一度人種平等を認むれば、移民を送る前提をなすものとの心配より態度を固執したりと。

(平成三十年五月十六日受附)